

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大口市立 大口小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	3	3	2	2	17	27
児童数	90	77	72	81	81	64	10	475	

研究の概要

1. 研究主題

心豊かでたくましく,自ら学ぶ子どもの育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・2年生～6年生・算数 児童の理解状況に差が出やすい教科であるため

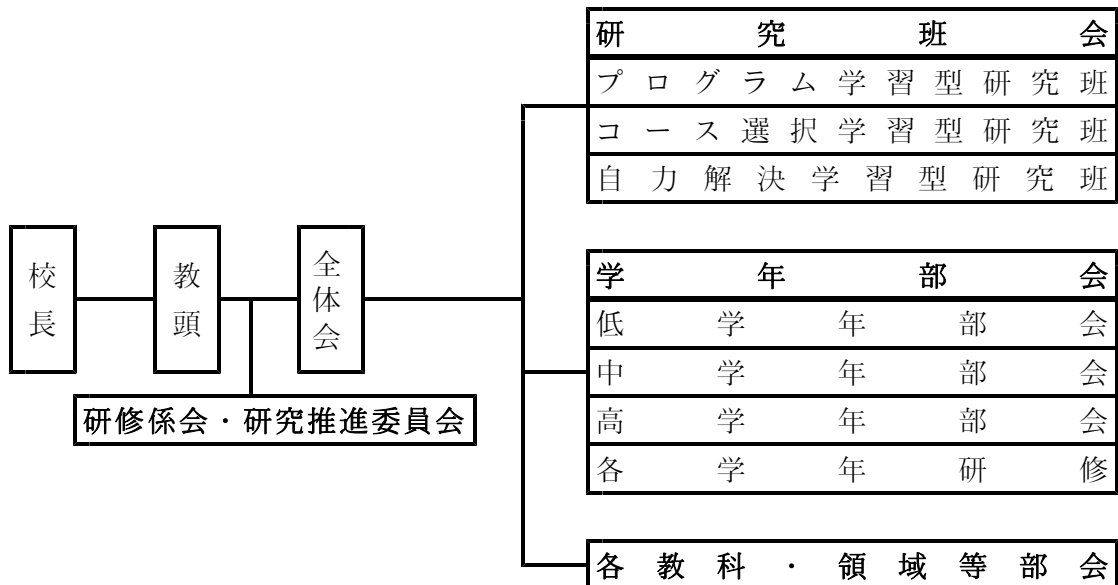
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>研究テーマ</p> <p>一人一人が確かな学力を身につける学習指導の在り方 ～算数科におけるコース別学習を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの学習スタイルの違いに着目し,それぞれの学習スタイルにあったクラス編成を行い授業を展開すれば,一人一人に確かな学力を身につけることができるのではないか。 ・子どもたちの実態にあった指導過程の工夫や授業の改善を行えば,意欲的に学習に取り組み,一人一人に確かな学力を身につけることができるのではないか。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の主旨や目指す児童像について,全職員で共通理解を図る。 ・児童の実態を把握し,より効果的な指導体制について検討する。 ・現在の指導法の問題点を洗い出し,改善するための指導過程の工夫を行ったり,授業改善の視点を設定したりする。

平成16年度	研究テーマ 一人一人が確かな学力を身につける学習指導の在り方 ～算数科における個に応じた指導法の研究～
	研究の見通し ・私たちが、子どもたちの実態をとらえ、身につけたい学力を明確にし、柔軟に対応しながら学習のねらいにせまる授業を展開すれば、一人一人が意欲的に学習に取り組み、確かな学力を身につけることができるのではないか。 研究の内容・方法 ・研究の主旨や目指す児童像について、全職員、保護者で共通理解を図る。 ・児童の実態を把握し、より効果的な指導体制を考え、柔軟に対応していく。 ・授業改善の視点を基に現在の指導法を見直し、検証授業を行い実証する。

(3) 研究推進体制

○ 研究組織図



※ 児童の学習スタイルの違いに着目し、コース設定を行い、それぞれのコースで指導過程の工夫や授業改善の研究が進められるように研究班を設定した。

○ 少人数授業コース分け

学年	学級数	コース分け (グループ数)	担当
2	2	じっくり1, じっくり・わいわい1, わいわい1	担任2名, 加配A 1名
3	2	じっくり1, じっくり・わいわい1, わいわい1	担任2名, 加配A 1名
4	3	じっくり2, じっくり・わいわい1, わいわい1	担任3名, 加配B 1名
5	3	じっくり1, じっくり・わいわい2, わいわい1	担任3名, 加配B 1名
6	2	じっくり2, じっくり・わいわい1, わいわい1	担任2名, 加配A B 2名

※ グループの数は、希望人数により変更する場合もある。

1年生については、加配がT・Tとして週3時間入っている。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

授業に対する職員の見方・考え方が変わり、改善の視点が明確になったことで、同じ学習内容でも多様な指導法を考えることができた。

自分に合った内容で学習を進められるので、算数に対する子どもたちの学習意欲が高まっている。

同じような実態にある児童集団で授業を行うため、子どもたちに合わせた授業が展開しやすくなるとともに、子どもたちの理解度が浮き彫りになりやすく、個に応じた指導や手だてを考えやすくなった。

自力解決学習型の子どもたちは、一つの事象に対して多様な見方考え方ができるようになり深く追求しようとする態度がみられるようになった。

2. 今後の課題

私たち教師が、現在までの指導法からなかなか脱却できないために、多様な子どもたちに対応できない部分がある。そのためにも校内研修を充実させると共に、県内外の各種研修会や研究公開、授業参観等に参加し、教師としての指導力を高めていく必要がある。

クラス編成において、児童や保護者の希望を優先したために、私たちが個々の実態を考えたときに適していると判断したクラスと異なる場合がでてきた。そこで、研究の主旨や身につけさせたい学力を保護者にも十分説明し理解してもらう必要がある。

プログラム学習型の子どもたちは、学習に対して受け身になりがちである。

学力等把握のための学校としての取組

NRT全国標準診断的学力検査

目的 領域毎の全国標準との比較並びに知能との相関関係把握

実施内容 2年～6年全児童対象に行い、分析結果を保護者に報告するとともに今後の指導に生かす。

時期 年度初め（4月実施）

県版テスト

目的 観点別の学力調査

実施内容 1年～6年全児童対象に行い、評価に生かすとともに、指導改善に生かす。

時期 学期末（年3回）

単元テスト

目的 各単元における定着度把握並びに系統的分析を行う。

実施内容 1年～6年全児童を対象に行い、2年～6年の算数科においては、テストの採点、データ入力、s-p分析、小問別反応分析等を行い、定着の悪かった項目について特に補充指導を行う。また、学年を通してどの部分でつまずきが多いか分析する。

時期 単元終了後（ほぼ月2回）

レディネステスト

目的 児童の実態を知り指導計画並びに授業案を考える。

実施内容 学習に必要な既習内容について問題を作成し、実態を把握する。

時期 単元導入前

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

大口市学力向上推進協議会

日 時 平成16年2月19日(木)

場 所 大口市立大口小学校

対 象 大口市内各小・中学校並びに単位PTA代表
県立大口高等学校代表者，県立伊佐農林高等学校代表者
伊佐教育事務所，大口市教育委員会

目 的 研究内容について説明を行い，各校で行う学力向上策の参考にしてもらう
大口市立大口小学校学力向上フロンティアスクール研究公開

日 時 平成16年11月上旬

場 所 大口市立大口小学校

対 象 県内各教育関係者，PTA関係者

目 的 研究発表や公開授業を通して，研究の成果を発表し他校に普及させるととも
に，本校における今後の研究に生かす

年度ごとの研究誌作成

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法工夫改善に関わる加配の有無】 有 無